

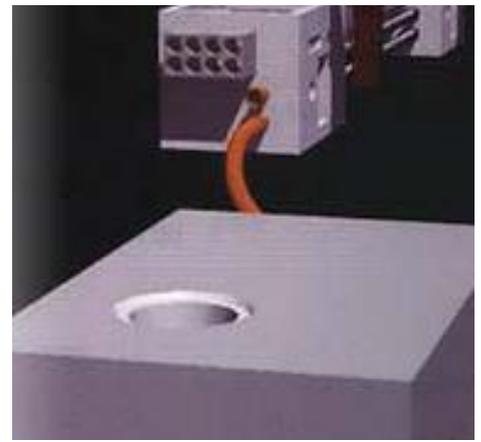


エコアクション21
認証・登録番号 0007685



2013 年度 環境活動レポート

(2013 年 4 月～2014 年 3 月)



Ⓚ九州高圧コンクリート工業株式会社

2014年7月1日 発行

1.	会社概要	1
2.	環境方針	3
3.	環境活動推進体制	4
4.	中長期目標	5
5.	環境活動実績	7
6.	環境関連法規制の遵守	2 1
7.	環境活動コスト	2 3
8.	次年度の環境目標	2 4
9.	ガイドライン要求事項の取組推移	2 6
10.	代表者による全体評価と見直し	2 7

1. 会社概要

[2014.7.1現在]

基本情報

事業者名	九州高压コンクリート工業株式会社
代表者	中西 章夫
設立年月日	1957年11月5日
資本金	2億4千万円

事業の内容

コンクリートポール、コンクリートパイル及びその他コンクリート製品生産並びに販売
土木建築工事の設計・施工並びに監督
産業廃棄物のリサイクル及び処理業
既設コンクリート構造物調査・診断に関する事業

許可の内容

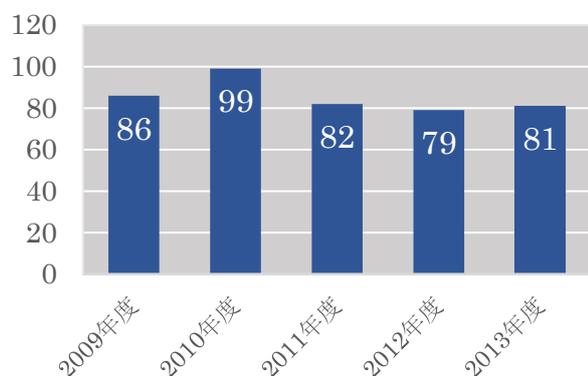
事業	内容
建設業	土木工事業、とび・土木工事業、ほ装工事業、塗装工事業
廃棄物処理業	中間処理業／ガラスくず等、がれき類（自動車等除く）
産廃収集運搬業	がれき類

事業の規模

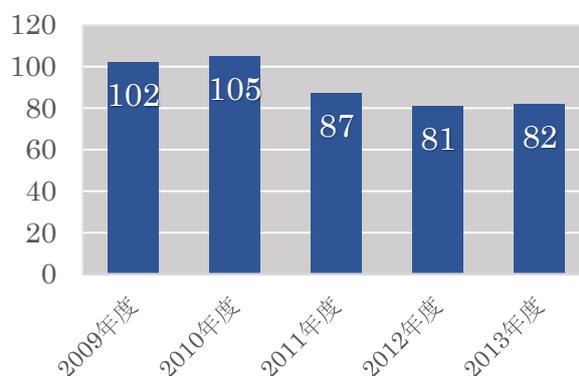
事業所	住所	面積		従業員数
		敷地	床	
本社	福岡県福岡市南区向野一丁目 13-14	1,296㎡	961㎡	89名
豊前工場	福岡県豊前市大字八屋 2544-61	97,444㎡	23,203㎡	41名
熊本工場	熊本県菊池市旭志川辺 1349-4	109,495㎡	11,169㎡	91名
鹿児島営業所	鹿児島県鹿児島市南林寺町 26-4	—	50㎡	1名
全社	—	208,235㎡	35,383㎡	222名



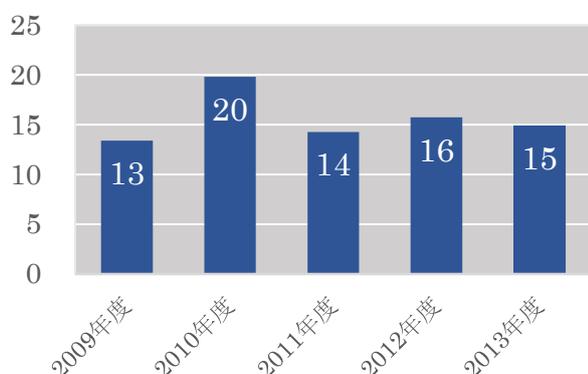
売上高 [億円]



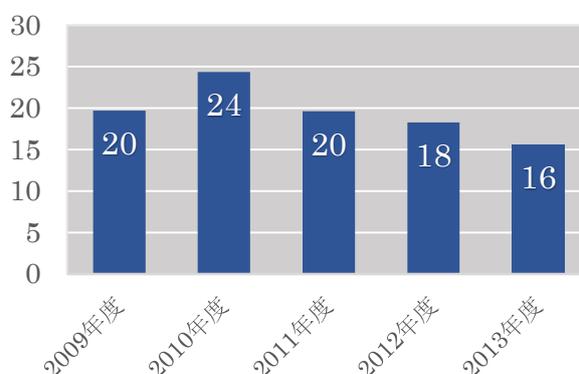
生産量 [千トン]



工事件数 [百件]



産業廃棄物処理量 [千トン]



沿革

1957年11月	設立
1958年9月	九州電力㈱にポール納入開始
1958年10月	豊前工場竣工
1964年4月	PCパイプ製造開始
1970年4月	JR、NTTにポール納入開始
1971年7月	鹿児島営業所を設置
1977年4月	電線類地中化製品製造開始 (豊前)
1981年9月	熊本工場竣工
1998年2月	廃品ポールのリサイクル事業開始
2001年1月	ISO9001品質システム認証取得
2007年5月	新JISマーク取得 (豊前)
2007年7月	新JISマーク取得 (熊本)
2007年11月	創立50周年
2010年9月	エネルギー使用の合理化に関する法律に基づき特定事業者指定
2011年11月	エコアクション21認証取得
2012年11月	再生骨材使用ポール生産開始 (熊本)

環 境 方 針

【環境理念】

九州高圧コンクリート工業株式会社はコンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組めます。

【基本指針】

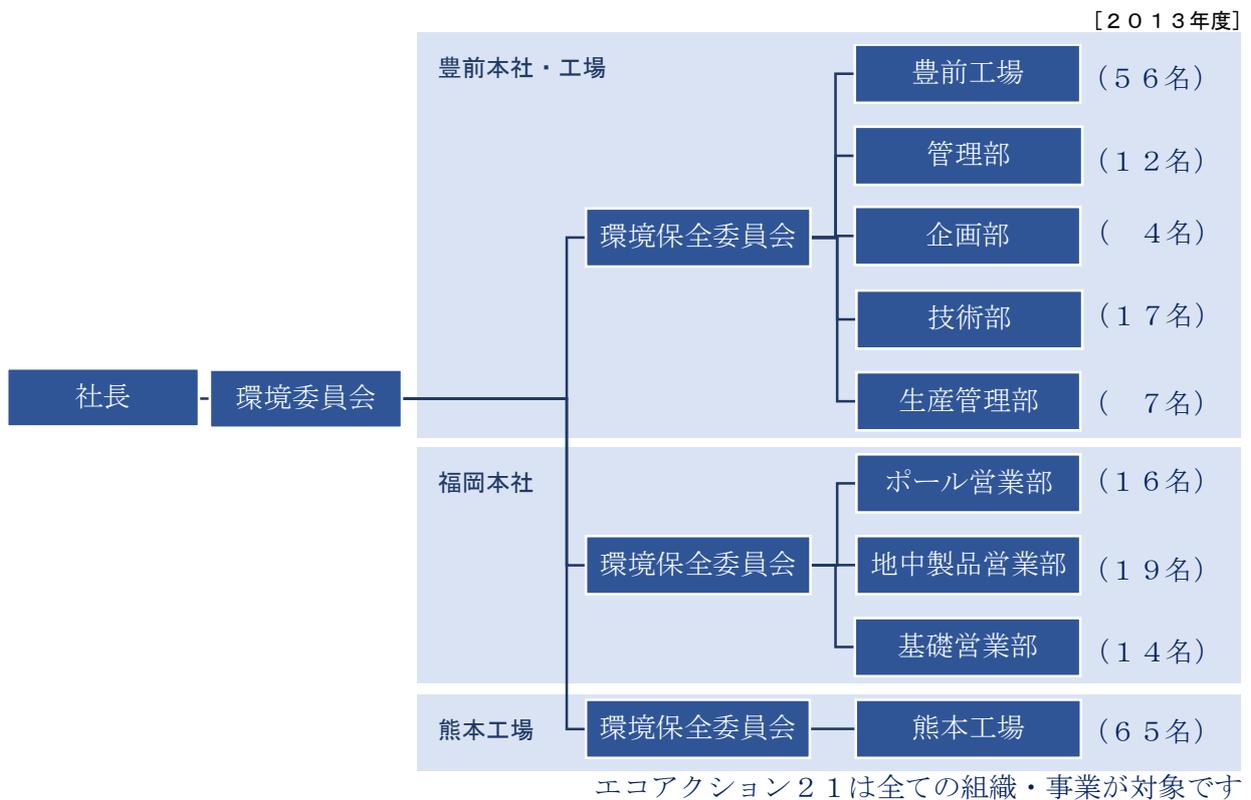
1. 環境活動として、次の重要テーマに取り組めます。
 - (1) 温室効果ガス排出量の削減
 - (2) 廃棄物量の削減・リサイクルの推進
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン調達推進
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境目標及び環境活動計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
5. 環境活動レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

2010年12月6日制定

九州高圧コンクリート工業株式会社

代表取締役社長 池松 勢三郎

3. 環境活動推進体制



委員会の構成

	環境委員会	豊前本社・工場	福岡本社	熊本工場
委員長	企画部長 [環境管理責任者]	工場長	営業本部長	工場長
委員	環境保全委員長 エネルギー管理員 エネルギー管理企画推進者	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員
事務局	企画部	生産G	計画G	生産G

主な役割

責任者	主な役割
環境管理責任者	全社における環境活動の構築・運用責任者
環境委員会	環境活動マニュアル策定、環境方針・計画及び目標の策定、 公害防止に関する対応事項策定、省エネ法対応 等
環境保全委員長	事業所における環境活動の構築・運用責任者
環境保全委員会	環境計画及び目標の啓蒙・実施、環境活動の確認・評価、 公害防止対応、緊急事態への対応 等
従業員	環境方針、計画に従い、全ての環境活動に取り組む
企画部	環境への負荷、取組の取りまとめ、環境関連法規の確認・情報収集、 環境活動レポートの作成 等

4. 中長期目標

中長期目標 [2009年度を基準年度とし、5ヶ年の中長期目標を策定]

項目		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
二酸化炭素排出量	目標		0.04738 ^{t-CO₂}	0.04690 ^{t-CO₂}	0.04644 ^{t-CO₂}	0.04597 ^{t-CO₂}	0.04551 ^{t-CO₂}
	実績	0.04786 ^{t-CO₂}	0.04927 ^{t-CO₂}	0.05269 ^{t-CO₂}	0.05406 ^{t-CO₂}	0.05537 ^{t-CO₂}	
産業廃棄物	目標		96%	96%	96%	96%	96%
リサイクル率	実績	96%	96%	95%	98%	97%	
水使用量	目標		0.83 ^{m³/t_生}	0.82 ^{m³/t_生}	0.81 ^{m³/t_生}	0.81 ^{m³/t_生}	0.80 ^{m³/t_生}
	実績	0.84 ^{m³/t_生}	0.77 ^{m³/t_生}	0.72 ^{m³/t_生}	0.81 ^{m³/t_生}	0.73 ^{m³/t_生}	
事務用品	目標		80%	80%	80%	80%	80%
グリーン調達率	実績	63%	67%	93%	91%	97%	

※1：電力の二酸化炭素排出係数は、各該当年度の九州電力実排出係数を使用

※2：二酸化炭素排出量、水使用量の原単位は、生産重量を使用

※3：化学物質については、目標設定が困難な事から、適切な使用及び管理を実施

中長期目標の考え方

- 二酸化炭素排出量、水使用量 → 前年目標値1%削減
- 産業廃棄物リサイクル率、事務用品グリーン調達率 → 現状維持

二酸化炭素排出量の推移

生産重量当りの二酸化炭素排出量



基準年度(2009年度)を100とした際の生産重量当りの二酸化炭素排出量は、毎年増加し、2013年度は、基準年度に対し16%増加している。

二酸化炭素排出量

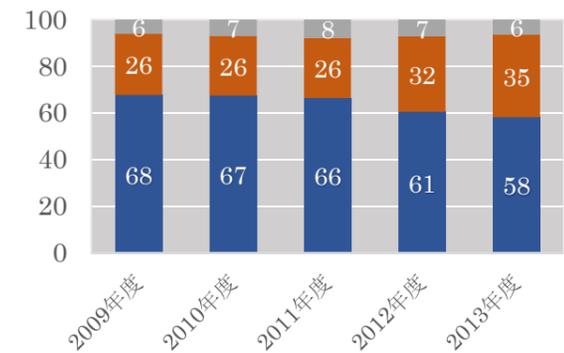


二酸化炭素排出量は基準年度に比べ減少しており、2013年度は基準年度比でマイナス7%と、毎年1%以上の削減を達成。一方で、2013年度の生産量は、基準年度比でマイナス20%と大幅に減少している。従って、二酸化炭素排出量は削減出来ているが、生産量の減少幅が大きかった為、中長期目標は未達となった。

生産重量



二酸化炭素排出量内訳



- A重油
排出量が最も多く、約60%を占める。電気の割合が増加している為、比率は減少傾向。
- 電気
30%程度を占め、増加傾向。(九州電力の排出係数拡大の影響)

※産業廃棄物リサイクル率、水使用量、事務用品グリーン調達率については、2013年度環境目標の頁に詳細を記載

5. 環境活動実績

2013年度環境活動実施状況分析評価

	計画[P]	実績[D]	分析[C]・評価[A]
1. 地球環境問題への取組	事業所における省エネ・省資源活動の推進	日常における節電、節水等の省エネの取組は定着している。 社会情勢に応じた夏季節電については、猛暑にも関わらず最大電力（7～9月平均）で対前年度比▲4.8%を達成。	省エネ推進の意識は徹底されており、今後も継続して取組む。 計画的な高効率機器(空調機器・照明設備等)への更新も継続実施。
	運輸面でのCO2削減推進	車輻更新時の積極的なハイブリッド車の導入や、エコドライブの教育による意識の高まりにより、ガソリン消費率は向上。	計画的な低公害車への更新と、エコドライブ定着の取組を継続実施。
2. 循環型社会形成への取組	産業廃棄物、古紙リサイクル率の維持・向上の取組	分別の取組は定着している。 産業廃棄物リサイクル率向上の為、木屑等のリサイクルを推進。	リサイクル率維持・向上に継続取組。
	産業廃棄物処理業におけるリサイクル推進	産業廃棄物の管理を徹底し、リサイクル率は高水準で推移。	リサイクルを継続取組。
	機密文書、使用済蛍光灯及び乾電池リサイクルへの取組	グループ会社のジェイライツとリサイクル処理契約を締結し、処理委託開始。	リサイクルを継続取組。
	ペーパーレス化の推進による資源の有効活用	両面印刷や裏紙活用等の取組により順調に推移。	紙資源有効活用の意識が徹底されており、今後も継続取組。
	スラッジの有効活用	スラッジを活用した環境衛生資材を開発し、事業としての有効性を確認。エコジャパンカップ*にも入選。	事業化へ向け、生産準備と販路拡大等の展開に取組。
3. 地球環境の保全	事務用品、建設資材のグリーン調達	購入実績の確実な把握は出来ており、グリーン調達の意識は浸透。	グリーン調達の取組は定着しており、今後も継続取組。
	化学物質・PCB等の適切な管理・処理及び代替化の取組	PRTR制度、SDS制度に基づき、適切に管理及び使用。 使用量、払出量を把握し、6月に経済産業省に届出。	適切に管理されており、今後も継続取組。
4. 社会との協調	環境情報の公開	レポートを作成し、環境活動の積極的公開を実施。 「環境活動レポート大賞・九州」で廃棄物部門賞を受賞。	レポートは、環境活動の社外へのPR、社内の理解促進に有効なツールであり、充実した内容のレポートを毎年発行。
	地域に密着した環境活動への取組	各事業所の状況に即した地域清掃活動を実施。 福岡本社：本社周辺の清掃活動（1回/週） 豊前本社・工場：工場周辺の清掃活動（1回/月） 熊本工場：工場周辺の草刈り、清掃活動（5回/年）	事業所毎に地域に密着した取組を実施しており、今後も環境活動の一環として、継続取組。
5. 環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自律的運用	環境活動の取組を環境委員会及び環境保全委員会を通じて実施。 全社員を対象とした環境教育も実施。	委員会による環境活動の周知、教育による環境活動の意識高揚を継続実施。
	エコアクション21要求事項の確実な実施	業種別のガイドラインに従い、環境活動を実施。産業廃棄物処理業、建設業において新規目標を設定し、活動の幅を広げた。	今後も実績の把握を確実にし、要求事項に従い活動を継続。
	環境に関するコンプライアンスの確保	「小型家電リサイクル法」など、環境法規の最新情報を取得し、法規を確実に遵守。	今後も、法改正情報を取得し、法令遵守に継続取組。
	環境関連データの確実な把握	各事業所で毎月実績を把握し、全社では上期・年度の実績を把握。 環境委員会、保全委員会で実績を周知。	実績把握は環境活動の基本であるため、今後も継続取組。
	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施	全従業員を対象に環境教育を実施。 福岡本社：PCを活用したビデオ研修 豊前、熊本：DVD研修と環境活動の現状周知	環境活動に対する従業員の理解促進のため、今後も継続取組。

※：環境ビジネスウィメン、環境省、総務省、日本政策投資銀行、三井住友銀行の5者が主催し、産官民の協働事業として行う「エコビジネスの芽を見つけ、育てる」コンテスト。

2013年度目標

項目	目標	実績	達成度
製造業			
オフィス電力使用量削減	8.75 kWh/m ² 以下	7.44 kWh/m ²	115%
工場等の電力使用量削減	31.2 kWh/t _生 以下	30.9 kWh/t _生	101%
低公害車の導入	71.0%以上	76.3%	108%
ガソリン消費率向上	13.5 km/l 以上	18.2 km/l	135%
A重油使用量削減	11.9 l/t _生 以下	11.9 l/t _生	100%
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	97.4%	102%
古紙リサイクル率100%	100.0%	100.0%	100%
用紙使用量削減	975 枚/人以下	941 枚/人	104%
オフィス水使用量削減	0.58 m ³ /人以下	0.40 m ³ /人	131%
工場等の水使用量削減	0.81 m ³ /t _生 以下	0.74 m ³ /t _生	109%
事務用品のグリーン調達率向上	80.0%以上	94.4%	118%
規制フロン回収率100%	100.0%	実績無	—
建設業			
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	98.5%	103%
建設資材のグリーン調達率向上	80.0%以上	100.0%	125%
産業廃棄物処理業			
受託した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	99.8%	104%

※m²は床面積、t_生は生産重量、人は事務所要員数を示す

2013年度環境目標設定の考え方

- ① 基本的に、九電グループ環境目標に準じて目標設定
- ② 省エネ法対応のため、工場等の電力、A重油は前年度目標値▲1%
- ③ EA21ガイドラインに従い、建設資材のグリーン調達率向上、受託した産業廃棄物リサイクル率向上の目標を追加設定

[評価]

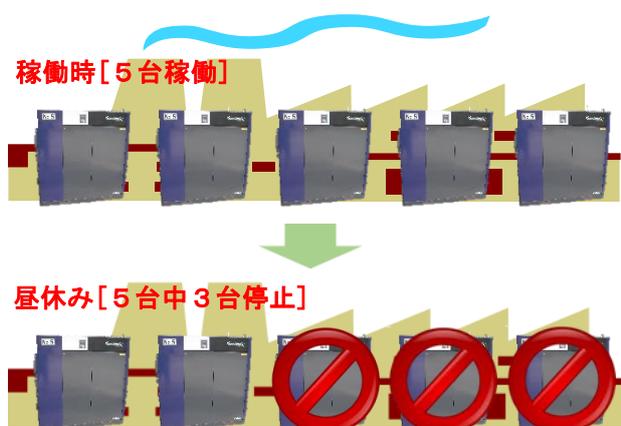
2013年度の環境目標に対する取組は、各事業所で計画的かつ適切に実施された。15項目の環境目標を設定し活動をした結果、全ての項目において目標を達成した。特に、生産重量が減少する中、工場等電力使用量、A重油使用量及び工場等水使用量の削減目標を達成した事に、環境活動の充実を感じた。

2013年度環境目標毎の実績と取組

1. 電力使用量削減の取組

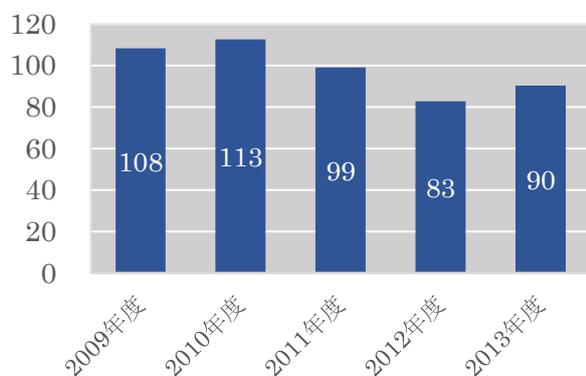
項目	目標	実績	達成度
オフィス電力使用量削減	8.75 kWh/m ² 以下	7.44 kWh/m ²	115%
工場等の電力使用量削減	31.2 kWh/トン以下	30.9 kWh/トン	101%

重点取組事項



- 福岡本社・鹿児島営業所
空調機の適正管理や昼休みの消灯、
外出時のPC電源Offの徹底。
- 工場
昼休みのコンプレッサーを、午後からの
製造作業に支障の無い範囲で停止。
豊前工場：2台中1台を停止
熊本工場：5台中3台を停止

オフィス電力使用量 [千 kWh]



省エネの取組が定着し、2009年度比で20%程度電力使用量は減少。
今後の取組として、照明のLED化等、
更なる節電に取り組む。

工場等電力使用量 [kWh/トン]



電力使用量は2009年度比で78%と大幅に減少したが、生産重量も79%減少しており、固定的要素を勘案すると、生産重量当りの電力使用量削減は厳しい状況。しかし、高効率機器(コンプレッサー、照明、変圧器等)への設備更新やコンプレッサーの稼働調整等の取組で電力使用量を削減し、目標を達成。

2. 社有車の環境負荷低減の取組

項目	目標	実績	達成度
低公害車の導入	71.0%	76.3%	108%
ガソリン消費率向上	13.5 km/ℓ 以上	18.2 km/ℓ	135%

重点取組事項

エコドライブ10のすすめ

- ふんわりアクセル「eスタート」**
「やさしい発進を心がけましょう。」
- 暖機運転は適切に**
「エンジンをかけたらすぐ出発しましょう。」
- 加減速の少ない運転**
「車距距離は余裕をもって、交通状況に応じた安全な定速走行に努めましょう。」
- 道路交通情報の活用**
「出かける前に計画・準備をして、渋滞情報や道路障害等の情報をチェックしましょう。」
- 早めのアクセルオフ**
「エンジンブレーキを積極的に使しましょう。」
- タイヤの空気圧をこまめにチェック**
「タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実な点検・整備を実施しましょう。」
- エアコンの使用を控えるに**
「車内を冷やし過ぎないようにしましょう。」
- 不要な荷物は積まずに走行**
「不要な荷物は積まないようにしましょう。」
- アイドリングストップ**
「無用なアイドリングをやめましょう。」
- 駐車場所に注意**
「洗車などをまわくので、違法駐車はやめましょう。」

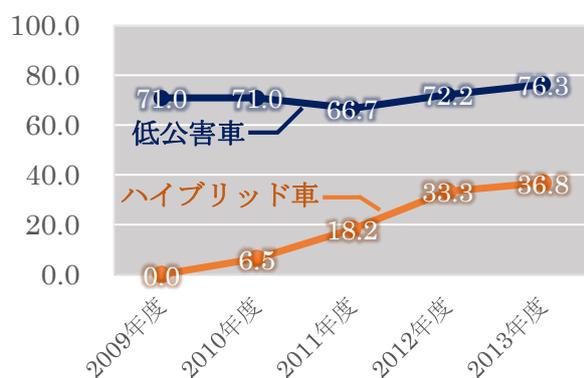
●低公害車の導入

社有車更新時に、低公害車を積極的に導入。

●ガソリン消費率

エコドライブの文書配付や、社有車へのエコドライブステッカー貼付による啓蒙活動を実施。

低公害車導入率 [%]



社有車更新時の積極的な低公害車への切替により、導入率は76.3%と順調に推移。特に、ハイブリッド車導入率については2009年度の0%から、2013年度は36.8%に増加。

燃料当りの走行距離 [km/ℓ]



エコドライブの取組は、定着している。ハイブリッド車を含む低公害車の積極的な導入により、燃料当りの走行距離は2009年度比で137%と飛躍的に向上。

3.A 重油使用量削減の取組

項目	目標	実績	達成度
A重油使用量削減	11.9 ℓ/トン以下	11.9 ℓ/トン	100%

重点取組事項



- 豊前工場
オートクレーブ(以下AC)の稼働日数の調整を、前年度より継続取組。
(毎日→1回/2日)
- 熊本工場
蒸気養生槽の蓋にパッキンを施し、蒸気漏れを改善。

豊前工場AC稼働日 [日]



ボイラーで発生する蒸気は、主に養生槽とACで使用している。豊前工場ではACの使用頻度が高く、A重油使用量が増加。使用量削減の為、2012年度よりACの稼働日調整を行い、稼働日は大きく減少。

生産重量当りのA重油使用量 [ℓ/トン]



生産重量当りのA重油使用量は、増加傾向にあったが、2012年度よりAC稼働日調整を行い使用量は減少した。

2013年度は、熊本工場において2台のボイラーの内、燃料効率の良いボイラーの率先活用を行い、更なる使用量削減を図ることが出来た。

4.産業廃棄物リサイクル率向上の取組

項目	目標	実績	達成度
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	97.4%	102%

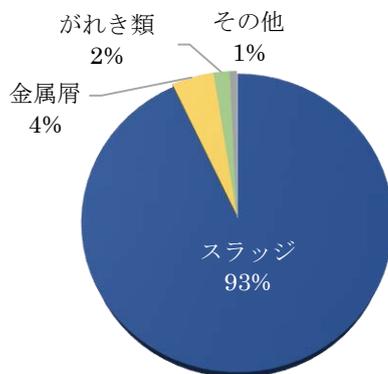
重点取組事項



安全靴やヘルメット等を回収箱に集荷し、リサイクル

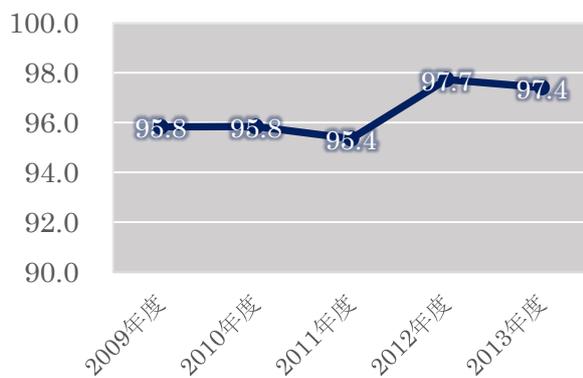
- 豊前本社・工場
産業廃棄物として処理していたスラッジの有効活用の開発に取組。
- 熊本工場
廃プラとして最終処分していた安全靴やヘルメットについてもリサイクル開始。木屑も、焼却処理から燃料チップ化によるリサイクルを達成。

産業廃棄物内訳 [%]



産業廃棄物の内訳を見ると、90%以上をスラッジが占めている。産業廃棄物発生量削減のため、スラッジを減らす取組が必要である。スラッジ有効活用として、畜産用敷床材へのリサイクル事業に取り組み。

産業廃棄物リサイクル率 [%]



産業廃棄物の分別の徹底は定着しており、リサイクル率は高水準で推移している。

5.用紙の適正使用・処理の取組

項目	目標	実績	達成度
古紙リサイクル率100%	100.0%	100.0%	100%
用紙使用量削減	975枚/人以下	941枚/人	104%

重点取組事項



- 古紙リサイクル
ゴミ箱を減らし、古紙回収BOXでの回収を促進。
- 用紙使用量
メールでの受領書類を、印刷回覧からメール転送回覧へ変更。
A3文書をA4サイズに縮小印刷。

古紙発生量 [ト]



古紙発生量は年度によりバラつきがあるが、古紙回収は定着し、リサイクル率100%。

用紙使用量 [枚/人]



電子媒体や裏面の積極的な活用、両面印刷の徹底は定着し、目標を達成。
2010年度をピークに2011年度は一旦減少したが、再度増加傾向にある為、更なる削減が必要。

6.水使用量削減の取組

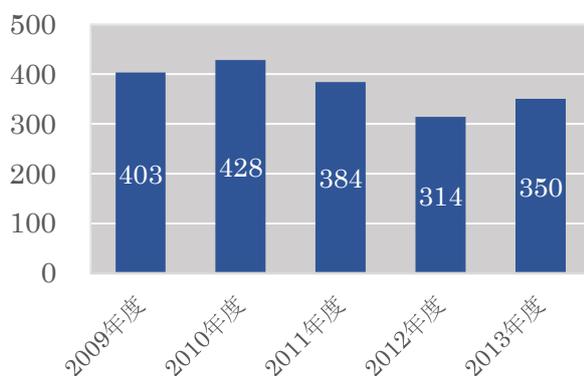
項目	目標	実績	達成度
オフィス水使用量削減	0.58 m ³ /人以下	0.40 m ³ /人	131%
工場等の水使用量削減	0.81 m ³ /トン以下	0.74 m ³ /トン	109%

重点取組事項



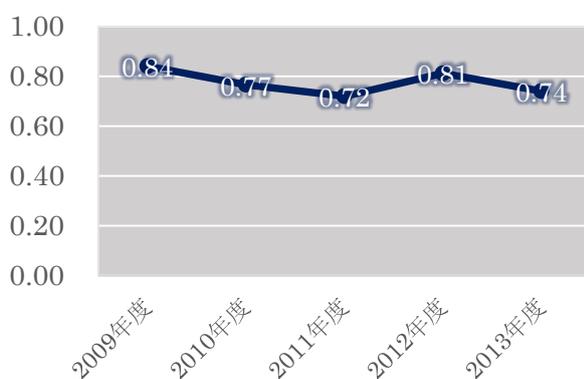
- 福岡本社・鹿児島営業所
ステッカーを貼付し、節水の意識を喚起。
- 工場
バッチャープラントの骨材搬入ベルコンは、稼働の都度自動洗浄をしていたが、毎朝1回の手動洗浄に変更。
(25回/日→1回/日)

オフィス水使用量 [m³]



節水の取組は定着し、目標を達成。
しかし、2010年度をピークとして減少傾向にあった使用量が増加した為、更なる節水の取組が必要。

工場等水使用量 [m³/トン]



生産量は減少傾向にあるが、水使用量は毎年目標を達成しており、節水の取組は定着している。
2012年度に増加した生産重量当りの水使用量は、ベルコンの洗浄方法の変更、熊本寮の漏水補修等の取組の効果で、2013年度は減少。

7.事務用品のグリーン調達率向上の取組

項目	目標	実績	達成度
事務用品のグリーン調達率向上	80.0%以上	94.4%	118%

重点取組事項

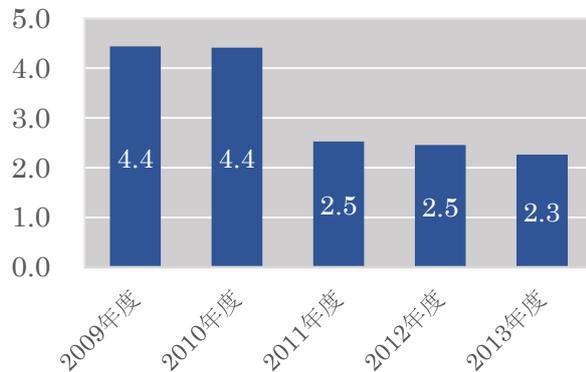


●全社

グリーン商品購入の周知徹底により、活動は定着。

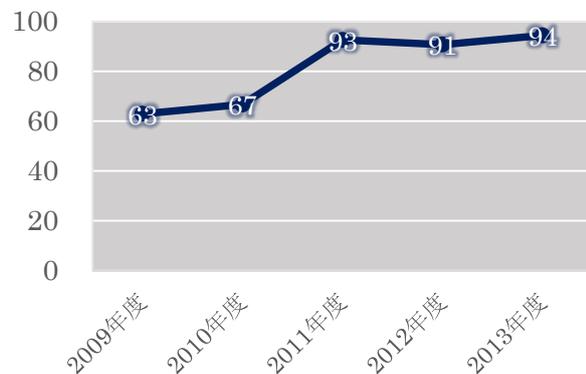
「グリーン対象商品」のリストを作成し、確実な実績把握も推進。

事務用品購入額 [百万円]



2011年度に、対象を事務用品全般からグリーン商品の存在する事務用品に変更。事務用品購入量は減少傾向。環境負荷の低減のため、グリーン調達率向上と共に、事務用品の購入量・使用量も減少。

グリーン調達率 [%]



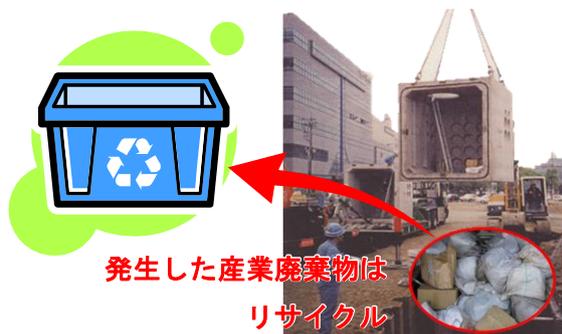
2011年度以降は、90%以上の高い水準を維持。

2013年度は94%と取組の成果が表れており、事業所別では、福岡本社がグリーン調達率100%を達成。

8.建設業における取組

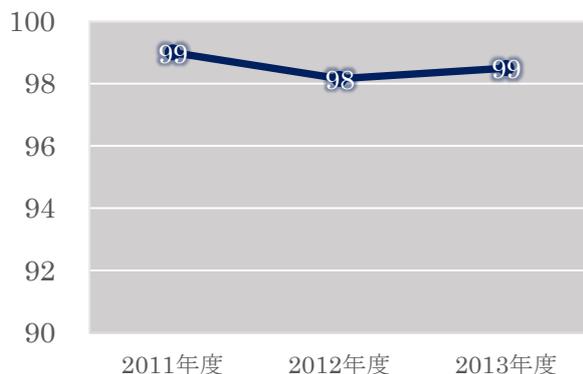
項目	目標	実績	達成度
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	98.5%	125%
建設資材のグリーン調達率向上	80.0%以上	100.0%	125%

重点取組事項



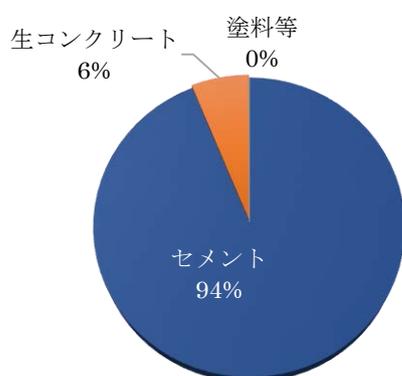
- 産業廃棄物リサイクル
建設現場における分別の徹底によるリサイクルの推進とマニフェストによる実績の把握。
- 建設資材のグリーン調達
建設現場での、建設資材使用量の把握とグリーン調達の徹底。

産業廃棄物リサイクル率 [%]



建設業における産業廃棄物リサイクル率の実績把握を2011年度より始めたが、高水準を維持している。リサイクルが出来ていない産業廃棄物は、微量の建設混合廃棄物。

建設資材内訳 [%]



建設資材のグリーン調達については、2012年度に実態を把握、2013年度から新規に目標を設定し、取組を開始。グリーン調達率は100%達成しており、今後も、確実な建設資材の実績把握とグリーン調達推進に取り組む。

9.産業廃棄物処理業における取組

項目	目標	実績	達成度
受託した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	99.8%	104%

重点取組事項

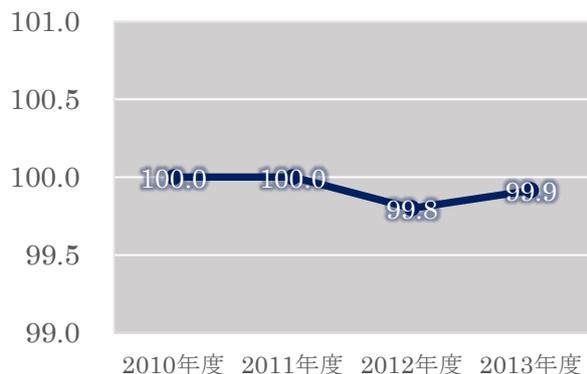


●両工場

受託した産業廃棄物(廃品ポール)の、管理を徹底。

破砕処理した廃品ポールは、再生骨材、金属屑、廃プラスチックに分別し、再生骨材、金属屑についてはリサイクル。

受託した産業廃棄物リサイクル率 [%]



受託した産業廃棄物のリサイクル率は概ね100%で推移。

リサイクルの内訳は、路盤材や再生骨材の自社製品に使用が88%、形鋼材が7%、リサイクル業者へ再委託し路盤材化が5%となっている。

再生骨材製造工程



	製造業	建設業	産業廃棄物処理業	
資源投入量	エネルギー使用量	エネルギー使用量	エネルギー使用量	
	電力	254万kWh [266万kWh]	ガソリン 4kl [4kl]	電力 8万kWh [0.7万kWh]
	A重油	974kl [966kl]	資材使用量	軽油 62kl [85kl]
	軽油	23kl [28kl]	セメント 2,691ト [2,176ト]	水使用量 1.5千m ³ [3千m ³]
	その他	10kl [10kl]	生コンクリート 176ト [194ト]	
	水使用量	59千m ³ [63千m ³]	鋼材 3ト [1ト]	
	コピー用紙使用量	170万枚 [170万枚]	防錆塗料 1ト [2ト]	
	化学物質取扱量		その他 1ト [1ト]	
	メチルナフタレン	13ト [13ト]		
	キシレン	1ト [2ト]		

事業活動	生産量	工事件数	受託した産業廃棄物の処理量
	 コンクリートポール	 鉄塔基礎工事	受入量 16千ト [18千ト]
	77千ト [75千ト]	1,136件 [1,306件]	破砕量 16千ト [18千ト]
	 コンクリートパイプ	電力管路工事	再資源化量
	1千ト [1千ト]	125件 [57件]	路盤材、原材料 14千ト [9千ト]
	 地中電線管路材	建築・土木構造物 基礎工事	リサイクル業者に再委託 1千ト [7千ト]
	4千ト [3千ト]	65件 [83件]	形鋼材 1千ト [1千ト]
産業廃棄物リサイクル率 97% [98%]	その他工事	産業廃棄物リサイクル率 100% [100%]	
古紙リサイクル率 100% [100%]	163件 [128件]		
	産業廃棄物リサイクル率 99% [98%]		

環境負荷量	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量
	4,320 ^ト CO ₂ [4,282 ^ト CO ₂]	8 ^ト CO ₂ [8 ^ト CO ₂]	211 ^ト CO ₂ [224 ^ト CO ₂]
	産業廃棄物処分量 170ト [158ト]	産業廃棄物処分量 20ト [24ト]	最終処分量(委託) 29ト [34ト]
化学物質排出量 1ト [4ト]			

6. 環境関連法規の遵守

環境関連法規制

環境一般		地球環境		廃棄物・リサイクル		大気・騒音・振動		水質・土壌		化学物質	
主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況
工場立地法	○	地球温暖化対策推進法	○	廃棄物処理法	○	大気汚染防止法	○	水質汚濁防止法	○	P R T R 法	○
		省エネ法	○	P C B 特措法	○	騒音規制法	○	浄化槽法	○	毒物・劇薬取締法	○
		フロン回収破壊法	○	建設リサイクル法	○	振動規制法	○				
		オフロード法	○	自動車リサイクル法	○						
				家電リサイクル法	○						
				小型家電リサイクル法	○						

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当社事業に適用される環境関連法規への違反はありません。また、関係機関からの指定、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

産業廃棄物処理業の情報公表項目

産業廃棄物処理施設

項目	豊前工場	熊本工場
許可番号	第457号	第中-226号
許可年月日	2010年1月22日	2012年5月10日
設置場所	豊前工場敷地内	熊本工場敷地内
事業施設の種類の種類	がれき類の破碎施設	がれき類の破碎施設
処理能力	97.6ト/日	160.0ト/日
産業廃棄物の種類の種類	がれき類	がれき類

※2001年度より埋立処分は未実施

広域認定証

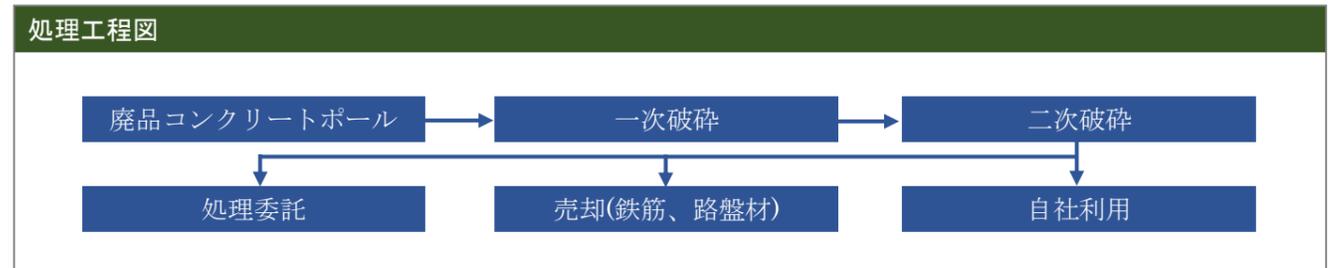
項目	内容
許可番号	第199号
許可年月日	2010年12月8日
産業廃棄物の種類の種類	当社製造のコンクリートポールが産業廃棄物となったもの
処理区域	全国

産業廃棄物収集運搬業

項目	福岡県	大分県	熊本県	宮崎県	鹿児島県
許可番号	04000008997	04408008997	04305008997	04500008997	04603008997
許可年月日	2012年2月8日	2012年1月22日	2012年1月25日	2012年2月14日	2012年2月22日
有効年月日	2017年2月7日	2017年1月21日	2017年1月24日	2017年2月13日	2017年2月21日
産業廃棄物の種類の種類	がれき類	がれき類	がれき類	がれき類	がれき類

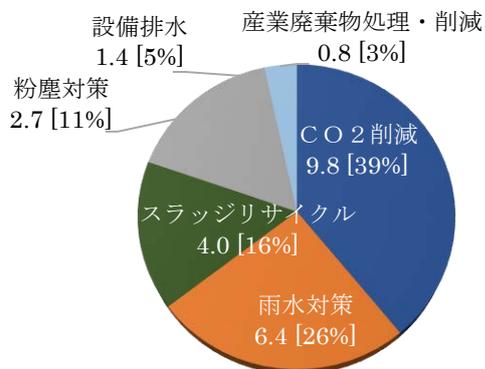
産業廃棄物処分業

項目	豊前工場	熊本工場
許可番号	04020008997	04325008997
許可年月日	2012年2月21日	2013年9月26日
有効期限	2017年2月20日	2018年9月25日
事業の範囲	中間処理(破碎)	中間処理(破碎)
産業廃棄物の種類の種類	ガラスくず、がれき類	ガラスくず、がれき類



7. 環境活動コスト

設備投資 [百万円]

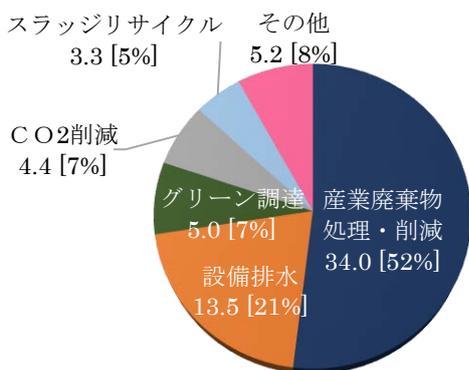


コスト合計 [25百万円]

2013年度の環境関連設備投資は、CO2削減(熊本寮のボイラー撤去及び電気温水器の設置等)が、9.8百万円(39%)で最も多かった。

熊本工場屋根スレート改修等の雨水対策が6.4百万円(26%)、スラッジリサイクル関連の投資が、4.0百万円(16%)と続き、合わせると80%を超える。

活動費用 [百万円]



コスト合計 [65百万円]

環境活動費用は、スラッジ処理等の産業廃棄物処理・削減費が34.0百万円(52%)を占めた。

工業用水を事業所外へ放流する為に、規制値以下へ処理する設備排水費用が13.5百万円(21%)で続いた。

CO2削減(4.4百万円)は、電力やA重油使用料削減の為の設備投資に伴う費用。

コスト削減効果

項目	前年度比	基準年度(2009年度)比
電力使用量	1.3百万円	7.8百万円
ガソリン消費量	—	3.0百万円
A重油使用量	1.1百万円	20.0百万円
水使用量	1.1百万円	4.2百万円

コスト削減効果として、省エネルギー活動の取組により、電力・A重油・水の使用量で前年度比3.5百万円のコスト削減を達成している。

基準年度(2009年度)比では、高効率機器への更新や環境活動の取組により、それぞれ大幅にコスト削減効果を得た。

8. 次年度の環境目標

2014年度目標

項目	目標	目標設定の考え方
製造業		
オフィス電力使用量削減	8.33 kWh/m ² 以下	九電グループ目標で取組
工場等の電力使用量削減	30.9 kWh/ト _ン 以下	省エネ法対応で前年目標▲1%
低公害車の導入	71.0 %以上	目標据置で継続取組
ガソリン消費率向上	13.5 km/ℓ以上	目標据置で継続取組
A重油使用量削減	11.8 ℓ/ト _ン 以下	省エネ法対応で前年目標▲1%
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0 %以上	目標据置で継続取組
古紙リサイクル率100%	100.0 %	目標据置で継続取組
用紙使用量削減	975 枚/人以下	目標据置で継続取組
オフィス水使用量削減	0.58 m ³ /人以下	目標据置で継続取組
工場等の水使用量削減	0.80 m ³ /ト _ン 以下	中長期目標に従い前年目標▲1%
事務用品のグリーン調達率向上	80.0 %以上	目標据置で継続取組
規制フロン回収率100%	100.0 %	目標据置で継続取組
建設業		
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0 %以上	目標据置で継続取組
建設資材のグリーン調達率向上	80.0 %以上	目標据置で継続取組
産業廃棄物処理業		
受託した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0 %以上	目標据置で継続取組

2014年度新規取組環境活動計画

環境活動は取組が定着し、順調に推移している事から、基本的に2013年度計画を継続して取組むが、循環型社会形成の取組として、以下の3つの項目を新規に織り込み。

- 再生骨材利用拡大
- スラッジリサイクルの事業確立と販路拡大
- P A d e C S 実用化に向けた具体的提案

[参考]

スラッジリサイクル事業

コンクリートスラッジ（コンクリート製品の製造工程で出るセメント汚泥）は、これまで産業廃棄物として処理していたが、ボイラーの排ガスで炭酸化処理した固形物を牛舎の敷床材に混ぜて、乾燥・除菌・脱臭の機能を行う環境衛生資材「床カラッと」として商品化（2014年10月からの販売を予定）。

本事業は、資源の有効活用、炭酸化処理過程での二酸化炭素排出量の削減や牛舎の環境改善に大きく貢献可能。



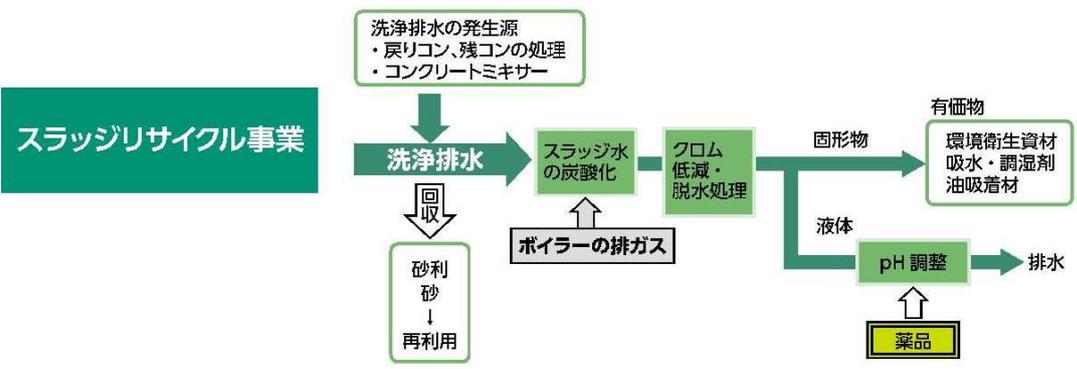
開発商品

- 環境衛生資材（床カラッと）**
家畜の敷床材に混ぜて、消臭・殺菌、堆肥化促進副資材
- 油吸着材**
漏油等の回収材、脱臭剤
- 調湿材**
床下・壁材の調湿材料
- 吸水・保水材**
乾燥剤や除湿剤用吸水材料
・シリカゲルの代用品
・取替え不要な除湿剤



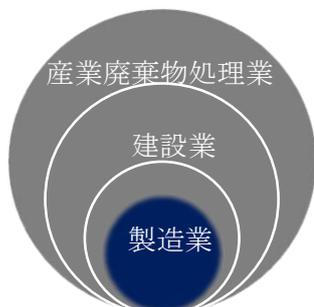

環境衛生資材（床カラッと）

造粒したスラッジ
油吸着材、調湿材、吸水・保水剤



8. ガイドライン要求事項の取組推移

2010年度

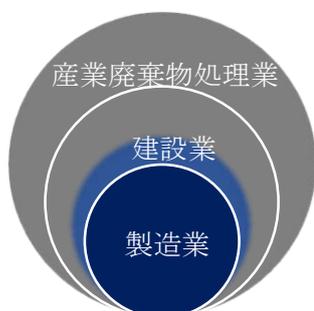


独自に環境方針・環境活動マニュアルを制定し、環境活動に取り組んでいたが、エコアクション21の認証取得に向け、ガイドライン要求事項を織り込み改定。

1月～3月で試行運用し、エコアクション21の取組を開始



2011年度



11月に、エコアクション21を認証取得。

当社の事業の中核を担う製造業においてEMSを構築し、取組を実施。

建設業は、環境への負荷・取組、環境関連法規制の遵守状況の実績把握に努めたが、産業廃棄物処理業は未実施。



2012年度



実績を基に、建設業の計画・目標を設定し取組開始。

内部監査を実施する等、活動の幅を拡大。

産業廃棄物処理業は、実績把握を行うと共に、環境配慮型製品の再生骨材使用ポールの生産を開始。



2013年度



産業廃棄物処理業の計画・目標を設定。全ての事業で、ガイドラインの要求事項を満たした。

リサイクル事業として、スラッジ有効活用に取り組み、次年度に販売開始の予定。

エコアクション21環境活動レポート大賞・九州で、環境活動レポートが「廃棄物部門賞」を受賞。

環境目標の達成状況

2013年度は環境目標を掲げた全項目について目標を達成する事が出来ました。エコアクション21を導入し、3年目になりますが、環境活動の意識が根付き、取組が定着し、成果が表れ始めた事を感じます。

しかし、事業所毎に目を向けますと、目標未達の項目が見受けられる為、環境負荷低減の更なる取組が必要です。

環境活動計画の実施及び運用結果

2012年度に再生骨材製造プラントを設置する等、近年力を入れて取り組んでいる廃品ポールリサイクル事業については、順調に推移しています。今後は、環境配慮型製品である再生骨材使用ポールを九州電力以外のお客様にも提案し、事業を拡大していきます。

また、リサイクル事業では、製造工程で大量に発生する産業廃棄物のスラッジを有効活用（リサイクル）する取組も重要で、2013年度はスラッジリサイクル研究開発を進め、事業化に取り組む事としました。2014年度下期からの販売を睨み、生産準備と販路拡大を図ります。

活動全体に目を向けると、情報公開や教育訓練、地域清掃活動、内部監査の実施など活動の充実化が図られています。特に、環境活動レポートがエコアクション21レポート大賞九州で産業廃棄物部門賞を受賞し、弊社の活動が認められた事は嬉しい限りです。

終わりに

今後も、コンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えている事を自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、地球に優しい企業を目指していきます。



*Kyushu Kouatsu Concrete
Industries Co., LTD.*

本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

九州高圧コンクリート工業株式会社

環境管理責任者 取締役常務執行役員 企画部長 杉元 重晴

環境管理担当者 企画部経営企画グループ 堀田 昌宏

TEL (092) 554-6653 FAX (092) 554-6702 <http://www.kyuatsu.co.jp/>